

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3671600124
法人名	社会福祉法人 よつ葉会
事業所名	グループホーム はな
所在地	徳島県阿波市市場町香美字秋葉本80番地1 (電話) 0883-36-7771

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月10日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,250 円	その他の経費(月額)	その他実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	260 円
	夕食	260 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原病院 阿波病院 根東歯科医院
---------	-------------------

徳島県 グループホームはな 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関前には運動会ができる広場がある。その一角には季節の野菜が実を付けた菜園や枕木を利用したベンチがある。ベンチの上には藤棚が広がり涼しい木陰をつくりだしている。グループホームは3階建ての1階にあり、他の介護サービス事業所や防災型地域交流センターが併設されている。玄関や居間、廊下、洗面所、壁面などには緑の植物が配置されている。共有スペースにあるソファや豊コーナーの堀コタツ等は、職員の視線が行き届くよう自然に配置されている。開設以来職員の異動はほとんどなく、全職員が利用者本位の生活を温かく支援し馴染みの関係を深めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「同業者との交流を通じた向上」について、グループホーム協会に加入し研修会等へ参加しているが、それ以外での積極的な交流の機会は持たれていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がサービス評価の目的と意義を理解して自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、法人役員、職員等で構成されており、2ヶ月に1回開催されている。会議では防災対策や地域との交流、利用者により得るリスクとその対応等について討議され、内容は全て記録し全職員に回覧され、情報が共有されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や家族会、運営推進会議等で積極的に伺ったり、意見箱を設置するなど意見や要望等を言いやすいよう工夫している。出された意見等はミーティングで協議しサービスの改善に向けて取り組んでいる。日頃の暮らしぶりについてはエピソードや写真を添えて伝えたり、行事の様子などは「はなだより」で知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣のスーパーや古くからの商店、理美容院を利用したり、保育所や小学校、中学校との交流や地域の文化交流、地域の方が参加する法人行事の運動会などに参加したりしている。また、玄関前の広場にある東屋で近隣の方と交流したり、菜園での作業を指導してもらうなど日常的に相互交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で検討し、住み慣れた地域での安心した暮らしの継続支援と近隣との活発な交流を支えるための理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念を理解するとともに、地域との交流に積極的に取り組むなど日々の業務に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のスーパーや古くからの商店、理美容院を利用したり、保育所や小学校、中学校との交流や地域の文化交流、地域の方が参加する法人行事の運動会などに参加したりしている。また、玄関前の広場にある東屋で近隣の方と交流したり、菜園での作業を指導してもらうなど日常的に相互交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、自己評価や前回の評価での課題について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、法人役員、職員等で構成されており、2ヶ月に1回開催されている。会議では防災対策や地域との交流、利用者に起こり得るリスクとその対応等について討議され、内容は全て記録し全職員に回覧され、情報が共有されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用状況などの提出に加え、利用者からの相談への対応や運営上の課題について相談し連携を図りながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には生活状況日誌や金銭出納帳を見てもらい現況報告をしている。県外在住などで面会の少ない家族には電話で現況を伝え、手紙や写真を送って報告している。「はなだより」も年4回発行し家族に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会、運営推進会議等で積極的に伺ったり、意見箱を設置するなど意見や要望等を言いやすいよう工夫している。出された意見等はミーティングで協議しサービスの改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんど行われていないが、離職時には引継ぎ期間を十分に取って馴染みの関係を早く築けるよう工夫するなど、利用者が不安にならないような配慮をしている。壁には職員の顔写真が掲示されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は全職員が参加できるよう計画的に実施し、外部研修は職員の段階に応じて積極的に受講できるよう配慮している。研修資料や報告書は全職員が回覧し、情報が共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修会等へ参加しているが、それ以外での積極的な交流の機会は持たれていない。	○	研修への参加を通じて他の事業所との交流を深め、勉強会や相互評価などを行うことによって、さらなる質の向上を図りたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ。安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者宅を職員が訪問してサービス内容を説明したり、体験利用をしてもらうなど他の利用者や職員、場の雰囲気に徐々に馴染みながら入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物たたみ等の家事を分担してもらうなど、本人の得意分野で力を発揮してもらい共に支えあいながら生活している。		
Ⅲ。その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり話す時間を設け、言動や表情の中から本人の意向を把握している。利用者の状態に変化が起きた時や意思疎通が困難な場合は、家族等と相談しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員がカンファレンスに参加し、日々のコミュニケーションの中で把握した利用者、家族の意向や職員の気付き等を反映してその人らしく暮らせるための計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員一人ひとりが週間支援計画の中で確認しながら、状態の変化や関係者の気付きを取り入れた見直しがされている。本人・家族ともその都度話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、健康面で安心できるよう支援している。また、デイサービスやショートステイを提供し地域の利用者を柔軟に受け入れている。		
て					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族等の希望するかかりつけ医への受診支援がされている。また、週2回協力医院の医師による診察もあり、緊急時にも適切な医療が受けられるシステムづくりがされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるたびに、家族・かかりつけ医・看護師・職員等で話し合いを繰り返し全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員研修を通して意識の向上を図ると共に、利用者の誇りや生活習慣を再度確認し、お互いがプライバシーを損なわない対応を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や思いを把握し、家事の分担や買い物など一人ひとりの希望やペースにそった生活が支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力を活かし、調理・配膳・洗い物などを職員と一緒にしている。昔ながらの味付けや味見は利用者にお願ひし、共に食事の時間を楽しんでいる。前庭の菜園で採れた茄子・ピーマン・トマトなどが食卓に上ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活の中での入浴リズムや習慣を把握し、できる限り希望にそった入浴が楽しめるような支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の記憶や残存能力を活かして、裁縫や読書、洗濯物たたみ、おしゃべりなどが楽しめるよう支援している。職員と共に喫煙する利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、利用者で作った弁当を持って公園へ出かけたり近隣の散歩などを楽しんでいる。また事業所前の広場での外気浴や菜園で作業するなど、意向にそった支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態や居場所を常に確認し、外出したい様子があれば共に行動するなどして解放された空間づくりに努め、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練のうち1回は近隣から自衛防災組織による参加があり、地域との協力体制が築かれている。避難マニュアルや緊急連絡網も整備され、避難・誘導・消火器の使用法等の訓練は消防署の立会いで定期的実施している。非常食は法人で備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から献立のアドバイスを受けている。食事や水分摂取量を日誌に記録して情報を共有しながら、一人ひとりの状況に応じた必要な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう玄関や居間、廊下、洗面所、壁面などに植物が配置されている。また、ソファや掘りごたつが設置され昼寝をしたり新聞を読んだりと家庭的な雰囲気である。居室前には小さなテーブルと椅子が置かれ、談話コーナーになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に裁縫箱を持ち込み袋物作りをする利用者や読書好きの方、花好きの方など利用者の生活スタイルに合った居室づくりがされている。		